

第2回

東アジアヨーガ療法会議



会場 韓国チュネ健康科学大学

日時 2023年10月5日12時40分～

参加団体

東洋大学（日本）日本ヨーガ療法学会 韓国、チュンヘ健康科学大学
韓国心身研究院 北京大学 中国ヨーガ療法協会 モンゴル国立医科大学
モンゴル・ヨガ連盟 インド sVYASA 大学

参加申し込みはこちら

<https://ws.formzu.net/fgen/S80987605/>



大会スケジュール

12:50- 開会式

挨拶 キム・ヒジン医学博士大学学長

挨拶 カニカヴィヴェーカナンダ日本センター所長

13:00- 講義 1：ナゲンドラ

「パタンジャリによる伝統的なヨーガのテキストに従った瞑想」

13:30 講義 2：マンジュナート

「ヨーガ研究の動向」

14:00 講義 3：木村慧心

「現代社会とヨーガ療法の可能性」

14:30 講義 4：クァク・ミジャ

「パンチャ・コーシャに基づくヨーガ療法」

15:00 ティータイム

15:20 講義 5：加藤千恵子

「ヨーガ療法による症例の自動分析」

15:50 講義 6：チェ・ハントケ・アリヨン博士

「境界性知的障害のためのヨーガ療法とライフコーチング」

16:20 講義 7：祁欣

「北京大学と中国でのヨーガ実施経験の共有」

16:50 講義 8：ツェツェギ・ジャダンバ

「COVIT19 感染後の慢性呼吸困難に対するヨーガ療法の結果」

17:30 閉会式

* 各プレゼンテーションには 10 分間の質疑応答が含まれる。

講師プロフィール

H.R. ナゲンドラ インド sVYASA 大学代表



「パタンジャリによる伝統的なヨーガのテキストに従った瞑想」

H・R・ナゲンドラ博士は、ヴィヴェーカーナンダ・ヨーガ・アヌサンダナ・サマタナ (VYASA) の会長であり、スワミ・ヴィヴェーカーナンダ・ヨーガ・アヌサンダナ・サムスタナ大学 (S-VYASA 大学) の学長でもある。H・R・ナゲンドラ博士は、ヨーガのグルとして世界中で広く知られている。1943年1月1日生まれ。1968年、バンガロール大学で機械工学学士号、バンガロールのインド科学研究所 (IISc) で機械工学博士号を取得。その後、IIScの機械工学科で教鞭をとる。1969年、カナダのプリティッシュコロンビア大学で博士研究員を務める。1970年、NASA マーシャル宇宙飛行センターに博士研究員として移籍。1972年、米国ハーバード大学工学科学研究所にコンサルタントとして移り、ロンドンのインペリアル・カレッジ・オブ・サイエンス・アンド・テクノロジーの客員スタッフも務める。1975年、奉仕団体であるヴィヴェーカーナンダ・ケンドラに、カニャマリ・ヴィヴェーカーナンダブラムのトレーニングセンター名誉ディレクターとして参加。1979-1986年、ヴィヴェーカーナンダ・ケンドラヨーガ療法・研究委員会 (VK YOGAS) 事務局長。1993-2000年、全インド副会長。2000年よりベンガールのヴィヴェーカーナンダ・ヨーガ・アヌサンダナ・サムスターナ (VYASA) 学長。2002年から2013年までスワミ・ヴィヴェーカーナンダ・ヨーガ・アヌサンダナ・サムスターナ大学 (S-VYASA) 副学長、2013年より学長を務める。現在、H R ナゲンドラ博士は、インド政府 AYUSH(保健・家族福祉省) タスクフォース、CCRY(ヨーガ・自然療法研究中央委員会) SAC の IDY(ヨーガ内国民の日) 専門家委員会委員長を務める。オディシャ州ブバネスワールの KIIT で DSc(Honorary Causa) を取得。

これまでに工学に関する研究論文を30本、ヨーガに関する論文を135本、ヨーガに関する書籍を28冊出版。32名の博士課程の学生を指導。国内外の様々な研究機関や組織から多くの栄誉と賞を受賞。また、多くの教育機関や団体の指導者でもある。

マンジュナート インド sVYASA 大学



「ヨーガ研究の動向」

S-VYASA 大学副学長兼研究部長。マンガロール大学で自然療法とヨガ科学の学士号を、S-VYASA 大学でヨーガと老年医学の博士号を取得。また、ヨーガ研究への貢献が認められ、S-VYASA 大学より科学博士号 (Honoris Causa) を授与される。26年にわたる学術、研究、管理職としての経験を持ち、国際的な書誌データベースに索引付けされたジャーナルに70本の研究論文を発表。研究テーマは、ヨーガの心理生理学、瞑想の神経相関、老化とリハビリテーション。また、International Journal of Yoga (IJOY) の編集者であり、様々な国際ジャーナルの査読者でもある。

ハーバード大学医学部(アメリカ)、モナシュ大学(オーストラリア)、王立医科大学(ロンドン)、上海体育大学(中国)、薬科大学(イタリア)など、世界各地の一流機関や大学で、エビデンスに基づいたヨーガ療法に関する講義やワークショップを開催。科学技術省科学諮問委員会委員、ニティ・アヨグ統合医療イニシアチブ研究諮問委員会委員、インド政府 NAAC 高等教育ヨガ認定コア委員会委員、中国雲南民都大学ヨーガプログラム・認定運営委員会委員などを務める。

米国カリフォルニア州のヴィヴェーカーナンダ・ヨーガ大学副学長、シンガポールのアジア・ヨーガ・セラピー協会副会長、ヴィヴェーカーナンダ・ヘルス・グローバルというブランド名を持つ統合医療クリニックと病院の世界的チェーンの創設ディレクター。

講師プロフィール

木村慧心 日本ヨーガ療法学会理事長



「現代社会とヨーガ療法の可能性」

1947年群馬県生まれ。東京教育大学卒業。1982年、スワミ・ヨーゲシュワラナンダ・マハラジよりラージャ・ヨーガ・アチャリヤとしてイニシエーションを受け、ジュナーナ・ヨーギーの聖名を授かり、ラージャ・ヨーガの指導を始める。2003年、日本ヨーガ療法学会を設立。日本全国でラージャ・ヨーガを指導する傍ら、ウパニシャッド、ヨーガ・スートラ、バガヴァッド・ギーター、ブラフマ・スートラなど、伝統的なヨーガの聖典の数々について、瞑想指導や講義を行なっている。2019年、世界保健機関(WHO)の伝統・補完・統合医療プログラムから、20人の国際的専門家の1人として招かれ、WHOの「ヨーガのトレーニングのベンチマークに関するワーキンググループ会議」に出席。2019年6月、木村は自身の団体である日本ヨーガ・ニクタンとともに、ヨーガの普及と発展に顕著な貢献をしたインド首相賞を受賞した。

クァク・ミジャ 韓国チュネ健康科学大学 チュンヘ健康科学大学ヨーガ学科教授



「パンチャ・コーシャに基づくヨーガ療法」

クァク・ミジャはチュンヘのヨーガ部門の責任者である。健康科学大学、ヨーガ療法ディレクター 産業協力センター。著書に『ヨーガ・リラクゼーション・セラピー』などヨガニドラ・ワークブック、「ヨーガ心理学」: プラティヤハーラ 「ヨーガを教える」、「呼吸と癒し」、「ヨーガの瞑想」、「ヨーガ心理学から見たヨーガ・スートラ」、「コネクテッド Yogalogy」、「質問を通して見るバガヴァッド・ギーター」ミヤ教授は、ホリスティックなヨーガの応用に焦点を当てている。健康について、そしてヨーガをライフスタイルに結びつけることについても。

講師プロフィール

加藤千恵子 東洋大学



「ヨガ療法における情報の役割」

東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻教育心理学コース修士課程修了 2007年法政大学大学院博士課程修了。大分県立芸術文化短期大学講師、東洋大学情報科学芸術学部講師・助教授を経て同学部教授。理事長を経て、2021年4月より学部長に就任。資格は公認心理士、臨床心理士、アートセラピスト、ヨガセラピスト、そして公認社会調査士。所属学会は以下の通り。日本臨床心理学会、日本産業カウンセリング学会、日本精神病理学会 表現アートセラピー、日本スポーツ心理学会、日本体育学会、日本スポーツ精神医学会、日本視覚化学会、日本ヨガ療法学会。専門は臨床心理学、スポーツ心理学、芸術療法、ヨガ療法、心理統計学。また、以下のような研究にも携わっている。心理学と情報科学の複合分野に関連する、学生や社会人のメンタルケア、アスリートのメンタルトレーニングなど、心理サポートに活用できる知見の創出を目指す。研究活動の傍ら、心理分野の実践として精神科クリニックでのカウンセリングも行う。カウンセリングでは、アートセラピーやヨガセラピーを取り入れた多角的なサポートを行なっている。

鄭洪傑 東洋大学



「ヨガ療法による症例の自動分析」

学業成績：

2001年3月九州大学大学院工学研究科修士課程修了

2004年3月九州大学工学博士

主なキャリア

2004年4月、富士電機株式会社エンジニア。

2015年9月東洋大学計算力学研究センター助手

2020年4月東洋大学理工学部助教授

2021年4月東洋大学情報科学芸術学部准教授（現任）

主な研究分野

計算力学、人工知能、データサイエンス 学術団体：

日本機械学会会員 日本計算工学会会員 日本計算力学協会会員 日本建築学会会員 日本ダンスセラピー協会会員

講師プロフィール

田村義明 東洋大学



「ヨーガ療法による症例の自動分析」

1984年3月東京大学工学部卒業 1986年3月東京大学大学院 工学系研究科修士課程修了 1992年9月東京大学大学院工学系研究科博士課程修了 ジョブキャリア：1986年4月富士通株式会社システムエンジニア 1989年2月、宇宙科学研究所助手、1996年8月、東京大学大学院工学系研究科助教授。1996年8月東京大学大学院工学系研究科助教授 2001年4月東洋大学工学部助教授 2008年4月東洋大学工学部教授 2009年4月東洋大学情報科学芸術学部教授（現職）主な研究分野 計算力学、流体力学、流れの可視化、人工知能 学術団体：日本機械学会フェロー日本流体力学会会員日本航空宇宙学会会員 日本計算力学協会会員日本可視化協会シニア会員米国航空宇宙学会会員米国機械学会会員

チェ・ハントケ・アリヨン ヨーガ・イントゥ・ザ・ワールド・



インスティテュート・オブ・ ボディ&マインド

「境界性知的障害のためのヨーガ療法とライフコーチング」

2005年、韓国西江大学メディア大学院博士課程修了。1996年よりヨーガを始め、2001年よりPTSDから回復。2003年より「Post Traumatic Growth」を目指し、コミュニケーション、文化研究、心理学、ヨーガセラピーを統合した Institute of Body and Mind, Yoga into the Worldを設立。2018年Global Consortium on Yoga therapy創設メンバー、2020年 International Association of Integrative Therapy 副会長、Asia Yoga Therapy メンバー。

協会(2021年)。青少年健全育成に関心を持ち、韓国ガールスカウトの国際委員となる。

重度発達障害、自閉症スペクトラム、精神障害、受刑者、末期がん患者、認知症高齢者、脳卒中片麻痺などに対するヨーガセラピーを経験する中で、ARCHヨーガセラピーを開発。

彼女はこの会議で、韓国の障害者に対するヨーガ療法について話す予定だ。

訳書に「子供のためのアニマルヨーガ」「ヨーガ療法エッセイ」「午後時の自分に出会う」「私たちの身体文化探訪」「ホンサムボンボン」「クルクルブブ」「障がい者のためのヨーガ」などがある：また、障がい者のための簡単なヨーガソングを作曲。

講師プロフィール

チー・シン 北京大学



「北京大学と中国におけるヨガ教育・研究の経験共有」

北京大学体育研究学部准教授・修士課程スーパーバイザー。中国体育用品工業連合会学校体育工作委员会主任
北京市大学体育連盟女子体育研究会事務局長。北京大学体育連盟用賀支部副事務局長。北京大学スポーツ健康研究センター副センター長 主な研究の方向性 ヨーガと健康、ヨーガエクササイズと大学生のメンタルヘルスの研究、個人の成長促進を中心としたスポーツ産業経営。人工知能などの新技術とヨーガ指導の融合を探究。学部体育教育の革新と改革を積極的に行い、10以上の教育研究プロジェクトを主導し、10以上の中国語と英語の学術論文を発表し、国内外の学会に参加し、30以上の学会発表を行った。国家レベルの賞を受賞メイン講師を務めたMOOC「大学生ヨーガ」は2018年に"国家優秀オンラインオープン講座"に選ばれ、延べ270000人以上の受講生が講座を選択した。2021年の講座は、"国家一級学部講座"の第一陣の一つとして認められた。

エツェギ・ジャダンバ博士 モンゴル・ヨーガ連盟



「COVID 19 感染後の慢性呼吸困難に対するヨーガ療法の結果」

教授、一般外科医、心臓血管外科医。ツェツイン病院、ヨーガ指導者。インターナショナル・ヨーガ・スクール・オブ・モイゴリア (IYSM) 高校卒業後、ウランバートルのモンゴル国立大学で学び、1972年に卒業、医師となる。

モンゴル、ロシア、マレーシアで一般外科と心臓血管外科、超音波診断の研修を修了する。1996年、胃と腸の超音波診断をするために、超音波を使った消化管の解剖学と機能の研究を始め、ヨーガを消化管の浄化に利用している。(消化管ヨーガ・クレンジング)1997年と2001年に発明特許を取得する。

IYSMで学び、インターナショナル・ヨーガ・ティーチャー・トレーニングを学ぶ。

学位論文

1. 博士論文：先天性心疾患ファローの診断と外科的治療。ウランバートル。1997;
2. 博士論文：モンゴル人の内臓の超音波学的測定といくつかの外科的疾患の超音波学的症状(ヨーガによる浄化を伴う消化管の超音波検査を含む; 肺)ウランバートル。2006.